

(鼎談) 開発者を交えて対話型論証モデル再び
—習得・活用・探究に基づく問いの立て方とモデルの活かし方—
松下佳代先生(京都大学教授)、古川剣士(盛岡第三高校教諭)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」

No179

ペアで問いを立て 対話型論証を進めていく

高校日本史の授業実践

古川剣士先生

(岩手県立盛岡第三高等学校)

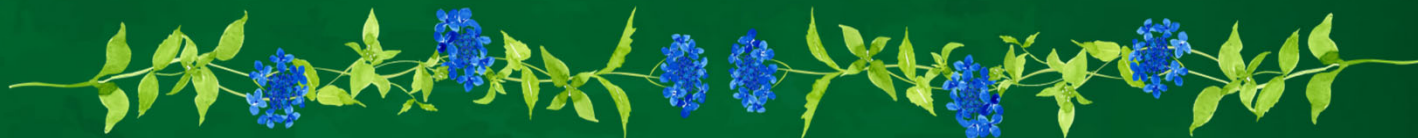
(ご紹介)



松下佳代
まつした かよ

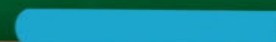
京都大学大学院教育学研究科 教授

京都大学博士（教育学）。群馬大学教育学部助教授、
京都大学高等教育研究開発推進センター 教授を経て、
2022年10月より現職



教育方法学（特に、能力論、学習論、評価論）、大学教育学
大学や中学校・高校をフィールドに研究と実践支援を行っています

大学教育学会会長、日本カリキュラム学会代表理事
中央教育審議会大学分科会臨時委員、日本学会議会員 など



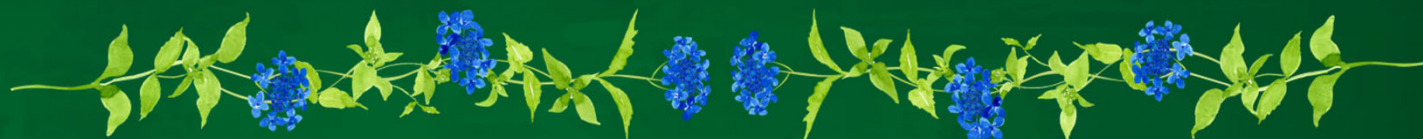
(ご紹介)



古川 剣士

ふるかわ はやと

岩手県立盛岡第三高等学校
地歴・公民科（日本史） 教諭

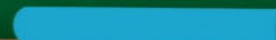


前任校勤務時代、岩手県立総合教育センター研究協力校の一員として、アクティブ・ラーニングの視点に基づく授業実践と理論構築に努める。

旺文社主催の「第1回学びを変える未来の学参企画」（2019年）で『レキシク』が敢闘賞受賞。

全国歴史教育研究協議会等でも実践発表を行っている。

近年では、清水書院『Research』（2023.1st）で「ペアで仮説を立て検証する〈日本史B〉の授業～〈日本史探究〉の文化史学習を刷新する！？～」が掲出されている。



関連著作の紹介



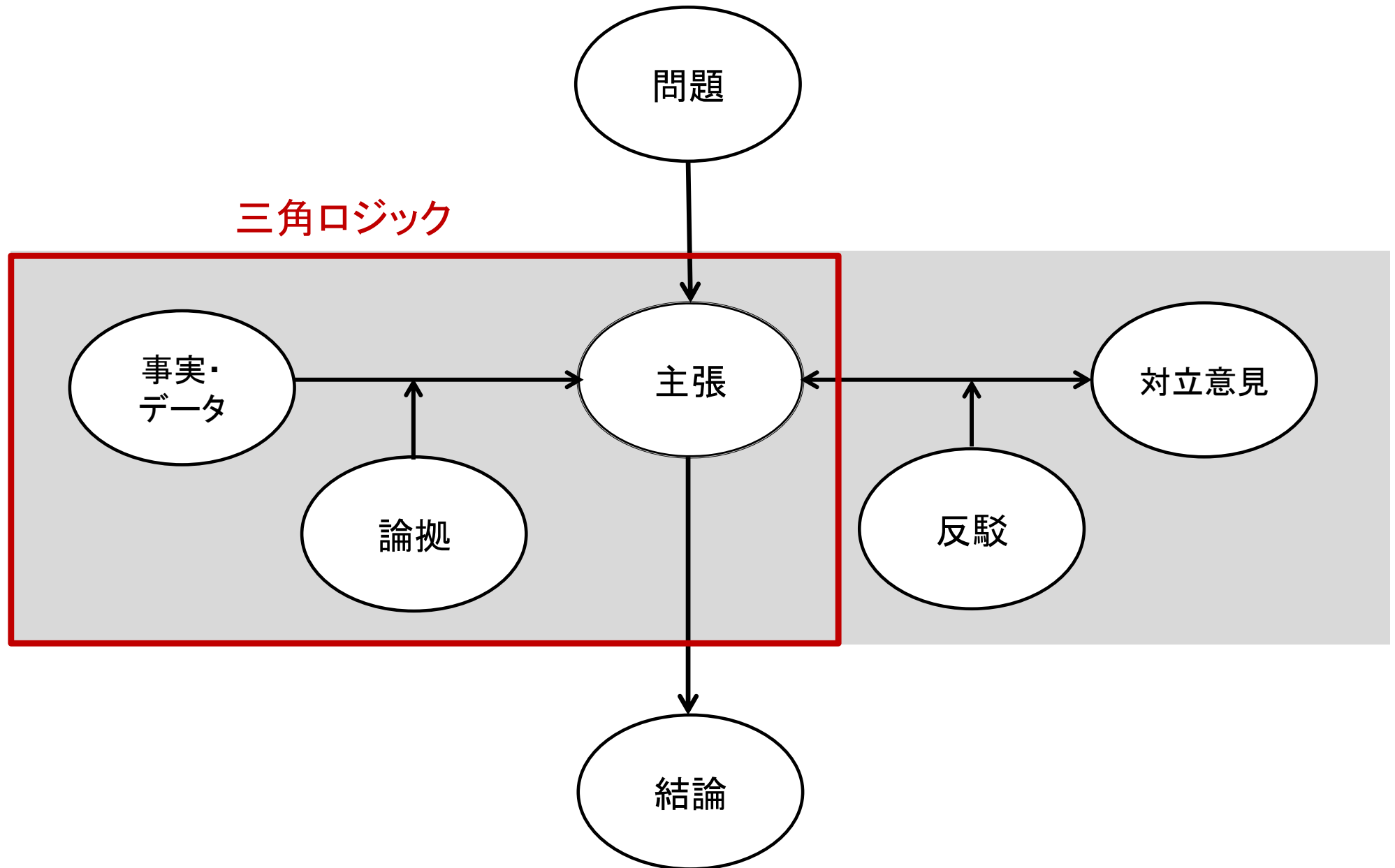
松下佳代著『対話型論証による学びのデザイン』勁草書房（2021年）



松下佳代・前田秀樹・田中孝平著『対話型論証ですすめる探究ワーク』勁草書房（2022年11月）

それではご覧ください

対話型論証モデル



問いの立て方

| | 習得 | 活用 | 探究 |
|------|---|--|---|
| 主体 | 教師主体 | 教師主体→生徒主体 | 生徒主体 |
| ポイント | コンフリクト(対立)を作る ・生徒S-生徒S'(例①) ・事実D-事実D'(例②) * 事実-反事実(if)も ・論拠W-論拠W'(例③④) | 新しいメガネをかける ・新しい概念を身につけると、 周りのモノ・コトがこれまでと は違って見える→問いが生ま れる | (a)探究のタイプ: 研究型/プロジェクト型 (b)教科横断の仕方: コンテンツ型/コンピテン シー型 |
| 例 | ①小・理科「燃焼」 「スチールウールを燃やすと重さはどうなるか？」 ②中・国語「小さな手袋」 「小さな手袋ではなく小さなマフラーだったら、作品 はどう変わったか？」 ③高・日本史「鎌倉幕府」 「鎌倉幕府の成立は1192年か、1185年か？」 ④高・世界史「フランス革命」 「フランス革命の開始は1789年か、1787年か？」 *③以外は、松下(2021)『対話型論証による学びの デザイン』 | 「製品のライフサイクル」という 新しいメガネ(知識)→日常生 活の中に様々な問い *No.156: 松本真哉「探究における 「課題の設定」戦略) | *松下・前田・田中(2022)『対話型 論証ですすめる探究ワーク』 |